

---

# - スモールライト -

コオロギJr.

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

- スモールライト -

### 【Nコード】

N3535I

### 【作者名】

コオロギJr.

### 【あらすじ】

マックスバリュースモールライトが売った話。

マックスバリュースモールライトが売っていたので買った。  
あと、単三電池も…。

ボクは前々からスモールライトが欲しかった。  
懐かしい。

まさか、マックスバリュースモールライトで売ってるなんて思わなかった。

さっそく電池を入れて、試してみようと思った。

でも、むやみに小さくできないし…。  
5分くらい悩んだ。

とりあえず知らない人の車がいいかなって思ったので、  
知らない人の車にスモールライトの光をあててみた。

知らない人のベンツはみるみる小さくなった。

「おお、ホントじゃん」

ちよつとドキドキした。

つてか、オレ「ビッグライト」買ってねー。

まあ、いいか。

つてよくないなー、どうしよう。

まあ、いいか。

しょうがない。

ビッグライト売ってなかったし。

おおー！ー！ー！ー、超楽しい！！  
次、次…

やべえー！ー！ー！ー！ー！ー！ー、楽しいー！ー！ー！ー！ー！ー！  
どうしよう。

うっとうしい奴小さくしちゃおっかな  
ふふふっ

ボクを虫けらのように扱ったアイツらのことが頭によぎった

ジャイアンとスネ夫…  
アイツらだけは許せねえ…

ボクはアイツらがいつもたむろしている空き地に向かった

ボクは遠くからこっさり空き地をのぞいた。  
しめしめ、いるいる。

ヒッヒッヒッ

ボクは空き地に入ってしまった。

ジャイアン：「のび太のくせに入ってくんなよ」  
スネ夫：「そうだ、そうだ。バカがうつるだろー！」

ボク：「そんなこと言うなよ。一緒に遊ぼうよ」

ボクはそう言って彼らに近づいた。  
後ろのポケットにはスモールライトをしのばせてる。

ボク：「ねえ、ジャイアン。いいことしようよ」

ボクはそう言って、ジャイアンにスモールライトを浴びせた。

ジャイアンはみるみる小さくなった。

タバコの箱くらいまで小さくしてやめた。

スネ夫は何が起こった解らず、ただ おどおどするだけだった。

ボクはとにかく可笑しくて。ゲラゲラと笑った。

狂ったように笑い続けたら、何だか疲れた。

ボク：「スネ夫君、お小遣いちょうだい。」

ボクはおどおどしているスネ夫から財布を取り上げると、札だけ抜き取った。

ボク：「次は、お前だよ」

ボクはスネ夫も小さくした。

また笑った。

何だか小さくするのも慣れてきた。

この二人 どうしてやるのかな。

トイレにでも流すか。

犬のエサにするか。

たこ焼きの具にでもしてやろうか。

ボクには積年の恨みがあるんだ。  
これくらい当然さ。

でも、ボクは急にむなしくなった。

なんだろうこの気持ち…。

何も満たされない…。

30歳になってまで、ボクは何をしてるんだろう。

20年前にドラえもんは死んだ。

ボクはその事実が上手く飲み込めないまま今まで時間を過ごしてきた。

あの頃の出来事は幻だったんじゃないだろうか。  
全部、ボクの空想だったんじゃないか。

タケコプター、どこでもドア、通り抜けフープ、…

あの道具達は一体なんだっただろう…。

「ドラえもん、ドラえもん、ドラえもん、帰ってきてよ…。」

頭の中が真っ白になった。

∴

∴

何分ボーっとしていたのだろう。

いや何時間もかもしれない。

気がついたら、夕日が沈みそうな時間になっていた。

ボクはしずかちゃんのいる家に帰った。

ポケットにジャイアンとスネ夫を入れて∴。

昔、「南君の恋人」ってドラマがあったよな。

そんな感じでもいいや。

そんな感じでもいいや。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3535i/>

---

- スモールライト -

2010年10月20日20時04分発行